

スマホ運転 根絶を

ポケモンGO死亡事故1年 父が法改正求め活動

「過失ではない 殺人だと思ろ」

愛知県一宮市の交差点で、小学4年の則竹敬太君（当時9）がスマートフォンゲーム「ポケモンGO」をしながら運転していた男のトラックにはねられて死亡した事故から26日で1年が経つ。ゲームのシステムは変更され、「ながらスマホ」運転への罰則強化を求める声も集まった。だが、同様の死亡事故は今も全国で相次いでいる。

「ついつい手でスマホをもつて自転車に乗っていませんか。私は、ながらスマホは殺人だと思ろ。過失ではない」

県立大府高校（同県大府市）で今月13日にあった講演会で、敬太君の父・崇智さん（47）が高校生に訴えた。病院での最期の様子を語ると、生徒がすすり泣く声が体育館に響いた。特別支援学校教員の崇智さんは5月以降、県内各地の学校で事故を語り回っている。

敬太君は昨年10月26日、下校中に横断歩道を渡っていてはねられた。運転手は「ポケモンGOをしてい



敬太君の遺影とともに講演する則竹崇智さん＝愛知県立大府高校

た」と供述。自動車運転致死傷処罰法違反（過失運転致死）の罪で禁錮3年の実刑判決を受けた。

事故は大きな波を作った。県警と一宮市は、ゲームの運営会社にシステム変更を要望。会社は一定の速度以上で移動中はアイテムなどが出ないよう仕様を変更した。

一宮市議会や県議会はながらスマホ運転への罰則強化を求める意見書を可決。崇智さんは県知事と一緒に国家公安委員長らに面会して啓発や取り締まりの強化を求め、県も同委員会や法務省に要請書を提出した。

今年も死亡事故20件

だが、ながらスマホ運転は減っていない。

警察庁によると、携帯電話を使用して起きた事故は昨年1年間に全国で1999件あり、死亡事故は27件あった。今年も9月末現在で死亡事故が20件発生。うち、運転手が画面を注視して起きてきた事故が4分の3を占めた。一宮市内でも5月、名神高速で地図アプリを見ながら運転したトラックが渋滞の最後尾に追突し、高齢夫婦が死亡した。

崇智さんは「モラル、マナーの啓発だけでは減らないのではないか。効果が無いならやはりルールを厳しくするべきなのでは」と法改正の必要性を問いかける。法務省刑事局の担当者は「罰則強化は関係省庁と連携しながら検討を続けている」。警察庁の担当者は「ペナルティーの在り方を

含め必要な方策を検討するとともに、広報啓発や指導取り締まりの一層の強化に取り組んでいる」と話している。（田中恭太）

運転できない 仕組み議論を

交通事故訴訟に詳しい高山俊吉弁護士の話。ながらスマホ運転は飲酒運転と同様、直接的な危険がある。一方、厳罰化は一時的な効果はあるが、しばらくすると薄れるため限界もある。飲酒運転は呼吸を検知して車を動かなくする技術が実用段階にあり、走行中の車内でスマホが使えなくすることも技術的に可能だろう。利便性とのバランスを考えつつ、ながら運転がそもそもできないようにする仕組み作りの議論が必要だ。